

本 会 記 事
Proceedings of the Society

平成15年(2003)年2月

日本遺伝学会幹事会編集

目	次	頁
1	遺伝学者コミュニティの英知を結集する時にあたって 日本遺伝学会第1回幹事会からのレポート……………	2
2	日本学術会議第18期(14年10月~15年2月)の遺伝研連委員長報告……………	6
3	第19期学術会議会員候補者の推薦について —吉川弘之学術会議会長から学会代表者への依頼状……………	7
4	活性化ワーキンググループからの報告と提案(再録)……………	8
5	生物科学学会連合の活動報告から— 『生物関連教科書の検定に関する意見書』を遠山大臣に提出……………	9
6	日本遺伝学会名誉会員候補者の推薦のお願い(推薦用紙綴じ込み)……………	11
7	『思い出の一編』(荻原保成)……………	17
8	『編集者への手紙』(辻本 寿)……………	18
9	第40回理工学における同位元素・放射線研究発表会発表論文募集のご案内……………	19
10	仙台大会ニュース(2003)—その2……………	21
11	日本遺伝学会第74回大会の記録と収支報告……………	23
12	[会員移動] 新入会員,住所変更,退会,訃報……………	24
13	寄贈図書・交換図書……………	25
14	学会推薦学術賞・研究助成年間スケジュール……………	25
15	会費納入のお願い……………	26
16	日本遺伝学会入会申込書……………	27
17	編集役員名簿……………	29
18	2003・2004年度日本遺伝学会役員・評議員名簿……………	31
19	編集後記……………	33
20	会則……………	34

<p>学 会 事 務 取 扱</p> <p>〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内</p> <p>日 本 遺 伝 学 会</p> <p>(電話・FAX 055-981-6736) 振替口座・00110-7-183404) 加入者名・日本遺伝学会</p>	<p>国内庶務, 渉外庶務, 会計, 企画・集会, 将来計画, 編集などに関する事務上のお問い合わせは, 各担当幹事あてご連絡下さい。</p>
---	---

遺伝学者コミュニティの英知を結集する時にあたって ～2003年度日本遺伝学会第1回幹事会からの会長レポート～

1月25日 13:30～17:30 東京大学理学部2号館301号室

出席者：田嶋（国内庶務）、齊藤（会計）、河野（企画集會）、品川（編集）、石和（会長）、山本和生（大会準備委員長）

（メール参加）：森（渉外庶務）、高畑（将来計画） 文責 石和（2/10記）

〈初めに〉

新幹事の構成は昨年10月31日に内定し、その後12月中旬までに規定に基づいて新評議員会の承認を持回りによって得た。12月25日国立遺伝学研究所にて開催された新旧引き継ぎ会終了後の新幹事会にて、会長から幹事会の構成について以下の提案がありました承された。

- ・幹事（将来計画）を新年度から新設し、日本遺伝学会の課題と展望についての検討、学術会議研連活動との連携などを担当。高畑尚之（総研大副学長）会員に委嘱。評議員会承認の手続きはおっけて行う事とする。
- ・今年度の大会準備委員長山本和生氏にオブザーバーとして幹事会出席をお願いし学会本部との連携を密に図る。来年度は、大阪の大会関係者をお願いする。
- ・学会事務担当関根裕子さんの後任として鈴木真有美さんが齊藤幹事から紹介され、お願いする事とした。事務引継ぎなどのため、関根さんは当分会長事務付きとして留任、事務所に勤務されます。詳細な打ち合わせは齊藤幹事も相談して行う。

〈幹事からの報告／協議事項などの紹介〉

春に予定される評議員会を念頭に各幹事は当面の検討課題を中心に、話題提供・意見交換をおこない、より具体的な報告／提案を次回幹事会にむけて準備することにした。以下その概略を項目的に紹介しますが、この内容は議事録そのものではなく、議長役の石和が必要と判断した部分を解説的な意味合いを含めて本会記事として記載します。

会長報告から

- (1) 第1回評議員会開催の日程調整を3月25日～4月5日の期間について実施する。2月下旬には日時場所を決定し関係者に通知予定。

これから2年間の任期中になすべき学会活動の目標を定め、具体的な行動プランを策定する上で重要な評議員会と受け止めている。

なお、学会事務の停滞をさけるため必要に応じて事務手続きをすすめ、評議員会の事後承認を得る。

会計監査・新設幹事の承認（本会記事参照）／木原賞奨励賞選考委員の選出／学術会議会員候補者（本会記事参照）の選出／調査委員の選出などを持ち回りで評議員にお願いする。

- (3) 昨年度から引き継いだ活性化案（昨年総会にて松浦幹事から報告、本会記事参照）をうけて、今年度は具体的な行動計画を策定、実行する委員会（作業部会）を評議員会内に設置するよう提案を検討中。会の構成、運営内規などの原案作成は企画集會幹事にお願いしたい。

- (4) 「本会記事」を活用して、会員相互のコミュニケーションの場に相応しい記事、原稿を多く掲載したい。従来の資料／記録性も維持しつつ、遺伝学の研究教育活動、学会のあり方に関する提言などの投稿を会員に呼び掛ける。さらに、いろいろな意見交換がこの小冊子を通して実現する事を期待したい。それはあたたかも会員サロンにも似た存在となる事を希望している。

やがてホームページは完備し、また会員とのEメールによるネットワークシステムも今年度内には実現を図りたいと考えている。したがって、いま迄とは「本会記事」の存在意義、役割が変わると考えられる。これからは、『日本遺伝学会ニュース』あるいは『GSJコミュニケーション』（仮）とタイトルも

新たに、斬新なミニコミ誌となるよう編集を進める（本会記事編集後記参照）。編集は幹事会で行うが、当分は石和が責任編集を担当の予定。

- (5) 生物科学学会連合の近況を報告。生物 I 関連教科書検定についてなど（本会記事参照）。

庶務幹事関係（田嶋）

- (1) 名誉会員推薦の書式を新たに作り本会記事に掲載する（本会記事参照）。
- (2) 最近の GGS 掲載論文の CITATION INDEX を調べ、論文賞の実現について議論した。
- (3) 過去約25年に遡って GGS, Jpn. J. Genet. から、引用頻度（CITATION INDEX）がもっとも高い論文を50編（ベスト50）選んでみた（本会記事参照）。関心のある方はご連絡下さい。
- (4) 学会ホームページの改訂準備をすすめている。

編集幹事関係（品川）

- (1) 編集委員の先生方から2003年度の編集委員の候補者として以下の方々のご推薦をいただいております。候補者名、所属、分野、推薦者の順で記載。

颯田 葉子（総研大）	Evolution, Population Genetics	（斉藤成也）
岡田 典弘（東工大）	Genome Evolution, Transposable Elements	（品川）
河村富士夫（立教大）	Bacterial Genetics, Regulation of Gene Expression	（東江昭夫）
福井 希一（阪大）	Chromosome dynamics	（大坪久子）
野島 博（阪大）	Cell Cycle regulation, Meiosis	（品川）

Advisory Board には先生方が reviewer としてよくお世話になっている方をご推薦ください。私（品川）は森下 卓（阪大）を推薦したいと思います。斎藤成也先生が今年から幹事となられ、ご多忙のため編集委員を辞退したいとの申し出がありました。先生には長い間編集委員として大変立派な仕事をしていただき、心からお礼を申し上げます。皆様のご意見や更なるご推薦をお願いいたします。

企画集会幹事関係（河野）

- (1) 学会奨励賞受賞者の講演を期待する声がおおいので、なんらかの配慮を大会準備員会に期待したい。
- (2) ベストペーパー賞を今年度の大会で実行する方向で大会側と共に検討したい。
- (3) 学会発表する学生会員への支援を検討したい。参加費および旅費に対する援助を如何にするか、いろいろな点から検討する。学会本部からの財政支援を軸に考えるので会計幹事に予算面で詳細を詰めて頂きたい。「参加費を無料にして、さらに距離に応じて旅費を上乗せ支給する案」が今回は主たる意見になったが、今後結論を得る前に大会運営との十分な打ち合わせと了解が前提となる。
- (4) 評議員会迄に仙台を訪ねて準備員会とさらに話し合ってきたい。

会計幹事関係（斎藤）

- (1) 財政事情を再点検した上で可能なら、GGS 投稿者への財政支援を考えたい。
会員に限ってカラーページ代を無料にするなど編集幹事とよく相談し原案を作成したい。
- (2) 1月31日現在の収入／支出の決算の概要を説明したが、来る第1回の評議員会には所定の手続きをへて最新の中間報告を提出する。
- (3) 2003年1月22日現在の会員数を報告した。昨年度末統計にくらべ、普通会员が約20名減となった。また賛助会員、機関会員も減少する傾向にある。
来る評議員会において会員獲得に関する議論をお願いする予定。
- (4) 会員とEメールによるネットワークを整備し、情報の公正公平な流れが実現するように努めたい。学会の活性化に大きく寄与する事を期待している。この作業は庶務幹事と打合せて進めたい。

普通会員：1131名（学生会員228）、外国会員：14名

機関会員：103名、賛助会員：9名

名誉会員：28名（国内12名、外国16名）

なおこの報告のあと数日して、名誉会員川村智治郎先生逝去の訃報が広島大学から伝わりました。生前の先生のご偉業を偲び、西岡みどり会員が追悼文を寄稿されます。（次号に掲載予定）。

大会準備状況（山本和生）

- (1) 大会ニュース「その1」が、2002年度第6号に掲載されるのでそれをみて頂きたい。「その2」は2003年第1号に掲載できるよう準備している。今大会の特徴の一つは、PCによる発表のみとなっていて、USBフラッシュメモリーにデータを保存して会場備え付けのPCに接続して使用する事に統一される。この事に不案内な会員がいないとも限らないので、さらに広報活動を徹底したい。
- (2) ベストペーパー賞の導入、参加学生への財政支援は何れも賛成で、協力したい。

将来計画担当幹事（高畑、メール参加）

将来計画に関する活動を開始するにあたって、遺伝学会会員の皆さんが遺伝学にどのように取り組んでおられるか知りたい。現在は、以下のような趣旨のもとに幾つかの問いかけを考えている。さらに内容に検討を重ね高い回答率が得られる様工夫をしたい。全会員のEメールアドレスによるネットワークシステムが実現したら、それを利用してアンケート調査を行いたく思う。なお、ついでながらメールネットワークを利用して、会長から直接会員にメッセージを出したり、会員から会長あるいは幹事会に意見をもらうルートは、これからの学会運営に必要と思うのでその努力を幹事会でして欲しい。私の担当する将来計画の策定に際しても極めて高い有効性をもつと考えている。

〈アンケートの趣旨案〉

遺伝学会員のみなさんへ：

20世紀は科学技術の時代でした。しかしすべての科学技術は「両刃の剣」であり、科学技術そしてそのうえに成り立つ人類社会全体が今、深刻な段階にきていることに、私達はようやく気付きはじめています。物理科学の成果のうえに驀進した20世紀型社会が大きな転換点にあることは、多くの人の共通した見方でしょう。こうした時代の転換点にあって、新しい科学技術、そのあり方、あるいは新しい社会的倫理を模索するうえで、生命現象を研究し、物理科学とは異なったものを見方をする生物学に期待が寄せられています。21世紀が、生物学あるいは生命科学の時代といわれる所以です。

私は将来の遺伝学を考えると、この避けては通れない問題を正面から捉える必要があるように思います。生物学を支える基礎分野として、遺伝学の重要性は明らかです。しかし、将来のことを考えると、さらに突っ込んだ遺伝学研究的の意義付けが必要のように感じます。一言でいえば、「人類の将来に対して、遺伝学は何ができるか？」です。私は、遺伝学会のみなさん一人ひとりと共に、この問題を真剣に考えることから再出発したいと思い、以下のような質問を会員みなさんにお尋ねすることを考えています。

アンケート実施の節には、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いする次第です。

取りまとめることが出来た時には、その結果を冊子、学会等での公開討論の資料として、今後の学会活動に役立てる予定です。またそれは皆さんにとっても興味深い資料となることでしょう。

〈アンケート質問の例〉

あなたのもっとも関心の在る分野：動物，植物，……（消去法）
質問1：人類の将来に対して，遺伝学は何ができるとお考えですか。（基礎，応用，技術，社会，文化，どんな切り口でも結構です。）
質問2：あなたの分野で今，新しく動き始めていることはどんなことと思われ
ますか。また，それはどんな方向を向いていますか。

アンケートを成功させるにはどのような工夫が必要かなど，皆さんからの率直な御意見御教示を頂きたい
思います。もし御連絡をいただけます時は，以下のところへお願いします。

高畑尚之，tel/fax:+81 46 858 1502/1542，email: takahata@soken.ac.jp

渉外庶務幹事関係（森，メール参加）

最近アメリカ人類遺伝学会／遺伝学会から，新しい会長，会計／渉外庶務幹事を知らせるよう依頼が
あったので，連絡した。以下の手紙はその返事。

From: Toney Vogel <tvogel@genetics.faseb.org>
To: "Ikue Mori" <m46920a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp>
Subject: RE: The Genetic Society of Japan-new officers
Date: Tue, 14 Jan 2003 09:49:48-0500

Thank you so much for getting back to me with all this information!
I appreciate all your help.

Toney

Ms. Toney Vogel
Office Manager, ASHG Exhibits Coordinator, GSA Registrar American Society of Human Genetics,
Genetics Society of America 9650 Rockville Pike>Bethesda, MD 20814

GGS 編集幹事よりのお知らせ

GGGへのオンライン投稿の受付を開始しました。

GGGの編集を迅速化するため，2003年度よりオンラインでの投稿も受け付けます。
詳細はGGGのInstructions to Authorsをご覧ください。

次回の幹事会は，4月4日に予定されています。なお幹事会へ
のご連絡は，各担当幹事まで直接にお願いします。（石和）

日本学術会議報告 第18期（平成14年10月～平成15年2月）

遺伝学研連委員長，学術会議会員 森脇和郎

- (1) 第138回日本学術会議総会（平成14年10月16日－18日）
「日本の計画 Japan Perspective」の提言
第18期の重要課題として「俯瞰的視点」と「開かれた学術」を掲げ，運営審議会附置日本の計画委員会を中心に検討を進め，現代の人類が共有している諸問題の解決策を探る「日本の計画」を提言した。
- (2) 18期第8回遺伝学研究連絡委員会（平成14年10月24日）
 - 1) 遺伝学研連自己評価の報告（委員長）
 - 2) 「日本の計画」報告書中「持続可能性への進化」という用語について進化学会から異論があり，注釈をつけることになった。（委員長）
 - 3) 期限付き分科細目の要望については，「教育分野の理学研究」という課題で設定要望書を提出することとした。
 - 4) 学術会議の将来計画について，委員長から，在り方委員会の中間纏め，総合科学技術会議の学術会議検討委員会の議論，および，科学者登録という動き等について紹介した。
 - 5) 平成16年度科研費審査の対応研連について，科研費の審査に際して，遺伝学研連が審査員を出せる分科・細目について検討し，現在の遺伝・ゲノム動態，および進化生物学の2細目に加えて，細胞生物学，生物多様性・分類，基礎ゲノム情報科学，基礎ゲノム科学，実験動物学の5細目の希望を出すことになった。
 - 6) 遺伝子操作専門委員会報告
品川委員より，同日13：00－15：00に開催された同専門委員会の報告があり，組換えDNA実験に関する国際条約の批准にあわせ，検討作業を急ぐこととなった。
 - 7) システム遺伝学ワーキンググループ報告
高畑委員より，同日13：00－15：00に開催された同ワーキンググループの報告があり，平成15年7月11日に遺伝学研連傘下の4学会に育種学会，進化学会を加え6学会合同のシンポジウム「ゲノム情報で変わる遺伝の科学」を開催することとなった。
- (3) 第19期会員推薦管理会は，平成14年11月以来延期中であった会員推薦のための諸手続きを再開し，平成15年3月17日までに各学会から会員候補者の推薦を求めることになった。平成15年7月には第19期会員が任命されることになる。



第19期学術会議会員候補者の推薦について

平成15年1月28日

登録学術研究団体 代表者 各位

日本学術会議会長
吉川 弘之

貴団体におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

現代社会においては、科学の目覚ましい発達により科学が社会に与える影響力が増大し、人類は著しい発展を遂げながら地球環境問題など様々な問題に直面しております。日本学術会議は、これらの問題を解決するために学術が果たす役割が極めて大きいという認識の下に、「日本の計画 (Japan Perspective)」を公表するなど、様々な活動を展開しております。

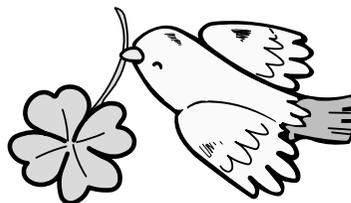
その一方で、御承知のとおり、中央省庁等改革基本法に基づき、一昨年来、総合科学技術会議（日本学術会議の在り方に関する専門調査会）において、日本学術会議の在り方について調査・検討が行われ、現在、「最終まとめ」の取りまとめに向けて審議が進められていますが、平成14年11月に公表された「中間まとめ」では、日本学術会議は「我が国科学者コミュニティの中核」になるべきなどとされております。

このように、近年、日本学術会議の果たすべき役割がますます大きくなる一方、「科学者コミュニティの代表機関」となるべく、抜本的な改革が求められている状況に鑑みるなら、日本学術会議として、広く我が国の科学者の英知を結集し、意見を集約できる体制を確立する必要があると考えております。

したがって、貴団体が第19期会員候補者を推薦されるに当たりましては、このような役割や改革を担うのにふさわしい業績・能力と行動力を有する科学者を選ぶことが重要であり、社会のニーズに対応すべく、女性、若手、産業人、地方在住者をはじめ多様な候補者を積極的に推薦されるよう御配慮いただきたいと存じます。

なお、女性会員につきましては、「日本学術会議における男女共同参画の推進について」（平成12年6月8日声明）の中で、「女性会員比率を今後10年間で10%まで高める」という目標を設定し、第17期の2名から第18期には7名になっていますが、第19期につきましても、一層の努力を行う必要があると考えております。

以上を御考慮いただき、「科学者の代表機関」にふさわしい会員候補者を御推薦いただきますよう、よろしくお願いいたします。



活性化ワーキンググループからの報告と提案

学会の活性化について、問題点の洗い出しとその解決に向けた具体策について、2回の会合とメールによる討議を行なった。今後、活性化のために進めるべき課題は、大会の充実とそれによる若い会員の獲得、及び社会的な認知を高める社会貢献とし、具体的な方策について検討した。

以下にその概要をまとめる。項目ごとに、○実現されたもの、●早急に実行にうつすことが望ましいもの、◎今後の検討課題、として示す。特に具体的な提案(●)に対しては、今評議員会にて何らかの判断をいただきたい。

雑誌について

- web化の実現、投稿数の増加など、よい方向に向かっている。
- 学会賞受賞者のレビュー執筆を義務づける。
- ◎論文賞について検討してみてもどうか。

若い会員の獲得について

- 若い会員を獲得するには学会の魅力を高めなければならない。学会の魅力化は大会を充実させるに尽きる(下記の項)。
- ◎学会費設定については議論が出なかったが、学生の大会参加費を一定の枠で補助することについては、財源の問題もあり、実現には検討を要する。

大会について

- 学会として特定の領域を特別に強化する努力として、大会準備側に企画を一任せず、学会として企画するシンポジウムやワークショップを毎年開催していく。この点は、九州大会で実現しているので、今後も継続していく。
- 若手を大会に主体的に参加させる。その方策として、以下のような案がでた。
 - ・奨励賞受賞者に翌年の大会でのワークショップ開催を義務付ける。
 - ・一般講演の座長に若手を指名する。
 - ・「我々若手は近未来に何をすべきか」といった個々の研究テーマを離れたフリーディスカッションを主としたワークショップの開催を誘導する。
- 奨励賞受賞者にも、講演の機会を与える。そのために、総会を含めて以下のような時間配分が提案された。
 - ・木原賞受賞講演30分、奨励賞受賞講演15分で2人。
 - ・推薦理由は予め総会資料に挟み込む。大会後の本会記事にも掲載する。
 - ・総会の時間を短くするために(40分程度)、なるべく会長が一括して説明し、一括審議、一括承認とする。
- 東京大会のBest Papers賞のようなものは、なるべく継続して行くことが望ましい。そのためには、本部が実施を援助する必要がある。また、表彰の効果(感激)を最大限に生かすには、授賞の発表を大会中にできるようなプログラムの配慮が望ましい。
- ◎口頭発表ができることは特徴であるが、発表に対する議論が少ないことは、学生をがっかりさせている。議論を活発にする方策が必要である。ポスター発表を有効に利用する案、同じグループからの同内容の発表をまとめる、討論時間をまとめてとる、等の案が出た。
- ◎サテライトミーティングによって人を集めることも考えてはどうか。

社会に対して

- 遺伝学に関して教科書問題は特に深刻であるので、WGをつくって学会としての意見を発信すべきである。

- 公開講演会を大会と同時開催のものだけではなく、春にも開催する。本部として10万円程度の予算措置、遺伝学普及会から10万円程度の補助の見込みをあわせ、主として大都市とその周辺の地域の会員に開催をお世話いただく。

- HPを充実させ、一般の人が見ても役に立つようなページをつくる。

(14年度企画集會幹事 松浦悦子)

生物科学学会連合の活動報告

—「生物関連教科書の検定に関する意見書」を遠山文部大臣に提出

生物科学学会連合 加盟学会 各位

「生物」関連教科書の検定に関する意見書を、本日、文部科学省に提出いたしましたので、ご報告します。

提出には、連合代表で日本細胞生物学会会長の永田和宏先生のほか、意見書及び別紙資料の作成にご尽力くださった小林興先生（日本植物学会）と松田良一先生（日本動物学会）、小生及び事務局から山口哲男氏が同席いたしました。提出窓口は初等中等教育局教科書課で、教科書企画官江崎典弘氏他一名が応対してくれました。意見書提出に至る経緯や問題点を説明し、教科書課の見解もつかうことができました。文部科学省の教科書検定の姿勢はあくまでも学習指導要領に忠実に…ということでした。しかし、昨年7月末に教科書検定の基準を審議する「教科用図書検定調査審議会」が検定基準を緩める答申を出しておりますので、今後は教科書検定も緩やかになる可能性があるという説明もありました（これに関しては、新聞などですでに報道されております）。

しかし、間もなく、「生物（監）」の検定結果が出ますが、噂によるとこちらはかなり厳しい検定が行われたようです。今後も「生物」関連教科書の検定の進め方を、厳しく監視をしていく必要があると思います。今後とも各位のご理解とご協力をお願いいたします。（以下略）

東京学芸大学 片山舒廉
(日本生物教育学会)

2003年1月16日

文部科学大臣 遠山教子 殿

昨年4月から小・中学校において実施され、来年度から高等学校においても実施される新学習指導要領については、実施以前からいくつもの重大な問題点が指摘されておりました。

その問題点の一つが、授業時間の削減に伴う各教科・科目の内容の削減と、それに伴う児童生徒の学力低下であります。ことに科学技術立国を目指すわが国において、最も重視すべき教科である理科において、この問題は極めて重要であります。すなわち、小・中学校の理科においては各学年間の内容のつながりを、高等学校の理科においては各科目間の内容のつながりを重視しなければならないにもかかわらず、それが軽視された学習指導要領が出来上がっております。

この状況をいっそう悪化させるのではないかと憂慮されているのが、教科書検定作業です。すでに使用が開始されている小・中学校の理科教科書では、教科書執筆者や編集者だけでなく、教科「理科」関連学会協議会からも、検定内容に対する疑義が出されておりました。更に、昨年4月に公表された高等学校の教科書検定結果を検討してみると、理科の各科目の検定に多数の問題があることが明らかになり、理数系学会教育問題連絡会は、高等学校の理科と数学教科書の検定に関する意見書を、昨年7月に提出いたしました。

しかし、昨年の高等学校の理科教科書検定結果では、特に「生物Ⅰ」教科書の検定に極めて重大な問題のあることが明らかになり、このような検定を通った教科書を用いて学習を進めた生徒たちが今後の日本を背負っていきけるのかどうかを考える時、私たち生物科学の研究者や教育者は大変な不安を抱かざるを得ません。そこで、今回、生物科学学会連合は、「生物」関連教科書の検定に対する意見書をまとめ、それらの教科書検定に携わる関係者各位の格段の配慮を要請することになりました。

21世紀は生物科学の時代と言われております。このような時代にあって、わが国の将来を担っていく若者たちの「確かな学力」のためにも、教科書検定のあり方を含めた教育政策の根本的な再検討を文部科学省に強く求めるものであります。

生物科学学会連合 代表（世話人）
日本細胞生物学会会長 永田 和宏



国立遺伝学研究所 博士課程大学院生募集

—— 発生，行動，進化，すべては遺伝子からはじまる ——

遺伝学は生命現象を遺伝子との関連のもとに解明する学問です。国立遺伝学研究所は、数多くの実験生物系統や整備されたDNAデータベースを有し、豊かな研究環境のもとで独創的な遺伝学研究を展開しています。当研究所では、総合研究大学院大学・遺伝学専攻を併設し、博士課程大学院生を受け入れています。独立した研究者の育成を目的に、複数の教官による研究助言制度、プレゼンテーション法指導、頻繁なセミナーなど、当研究所ならではの工夫で、密度の濃い少人数制教育を実施しています。あなたも遺伝学研究所で研究してみませんか？

大学院説明会のおしらせ

日 時：6月7日(土) 13:30-16:30

場 所：国立遺伝学研究所 (JR三島駅南口からバスまたはタクシーで約15分)

内 容：展示パネルを用いた各研究室の紹介 各教官との懇談 懇親会

申し込み：定員やメ切はございませんが、準備の都合上、事前にご連絡いただければ助かります。住所・氏名・現在の所属・連絡先をご記入の上、FAX、電子メールまたはお葉書で、以下の住所までお送り下さい。

ホームページ：<http://www.nig.ac.jp>

遺伝学研究所庶務課共同研究係（大学院担当）

電話：055-981-6713 FAX：055-981-6715 電子メール：info-soken@lab.nig.ac.jp

感じる力 考える力 討論する力を育てる 総合研究大学院大学遺伝学専攻

日本遺伝学会名誉会員候補者の推薦のお願い

下記の会則に従って名誉会員の候補者の推薦をお願いします。

日本遺伝学会会長 石和 貞男

記

日本遺伝学会会則（第6条）

本会は次の者を総会の決議により名誉会員とする事ができる。

本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。

以上

国内名誉会員・外国名誉会員名簿

【国内名誉会員】

樋渡 宏一 HIWATASHI KOICHI	〒981-0911 宮城県仙台市青葉区台原2丁目6-8 TEL: 022-234-4990 FAX: 022-272-9721
飯野 徹雄 IINO TETSUO	〒167-0043 東京都杉並区上荻2-33-5420 TEL: 03-3394-5420 FAX: 03-3394-5420
石川 辰夫 ISHIKAWA TATUO	〒176-0002 東京都練馬区桜台2-25-2 TEL: 03-3992-7982 E-mail: isikawat@eb.mbn.or.jp
近藤 宗平 KONDO SOHEI	〒583-0864 大阪府羽曳野市羽曳が丘6-2-13 TEL: 0729-56-2576 FAX: 0729-56-2576 E-mail: skondo@taurus.bekkoame.ne.jp
大島 長造 OSHIMA CHOZO	〒543-0001 大阪市天王寺区上本町9丁目2-7-1317 TEL: 06-6779-2035 FAX: 06-6772-9730
小関 治男 OZEKI HARUO	〒606-0022 京都市左京区岩倉三宅町380-22 TEL: 075-711-5648 FAX: 075-711-5648
坂口 文吾 SAKAGUCHI BUNNGO	〒819-0014 福岡市西区豊浜1-5-16 TEL: 092-891-0433 FAX: 092-891-0433 E-mail: sbungo@mrh.biglobe.ne.jp
田中 隆荘 TANAKA RYUSO	〒730-0143 広島市安佐南区長楽寺3丁目1-5 TEL: 082-878-3318
田島 弥太郎 TAJIMA YATARO	〒185-0034 東京都国分寺市光町1-3-8 TEL: 042-572-4759 FAX: 042-572-4759
富澤 純一 TOMIZAWA JUN-ICHI	〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 TEL: 055-981-8876 FAX: 055-981-6702 E-mail: tomizawa@lab.nig.ac.jp
大澤 省三 OSAWA SYOZO	〒732-0067 広島市東区牛田旭2-4-7-1003 TEL: 082-224-6022 FAX: 082-224-6022 E-mail: osawasyozo@miffg.com

【外国名誉会員】

- BENZER, S. Division of Biology, California Institute of Technology, Pasadena, California 91125, U.S.A
- BRENNER, S. 2168 Shuttuck Avenue, 2nd Floor, Berkeley Ca, 94704, U.S.A
- CROW, J. F. 24 Glenway Street Madison, WI 53705, U.S.A
- GILES, N. H. Department of Zoology, University of Georgia, Athens, Georgia 30601, U.S.A
- JACOB, F. Laboratoire de Genetique Cellulaire, Institute Pasteur, Paris XV, Paris, FRANCE
- KORNBERG, A. Department of Biochemistry, School of Medicine, Stanford University, Stanford California 94305, U.S.A
- LEDERBERG, J. The Rockefeller University, 1230 York Avenu, New York, New York 10021, U.S.A
- LEWIS, B. E. Professor of Biology, Emeritus (Active) Division of Biology, California Institute of Technology 159-29 Pasadena, California 91125, U.S.A
- LYON, M. F. MRC Radiobiology Unit, Harwell, Didcot, Oxon Oxii, ORD, UK
- NEI, M. Institute of Molecular Evolutionary Genetics, 328 Mueller Laboratory, Pennsylvania State University, University Park, Pennsylvania 16802, U.S.A
- PAL, B. P. Indian Agricultural Research Institute, New-Delhi, INDIA
- STRAUSS, B. S. Department of Molecular Genetics and Cell Biology, The University of Chicago, 920 East 58th Street Chicago, Illinois 60637, U.S.A
- SUEOKA, N. Department of Molecular, Cellular and Developmental Biology, University of Colorado, Campus Box 347, Boulder, Colorado 80309-0347, U.S.A
- TAN, C. C. Institute of Genetics, Fudan University, Shanghai, People's Republic of CHINA
- TONEGAWA, S. Center for Cancer Research, Massachusetts Institute of Technology, 77 Massachusetts Avenue, Cambridge, Massachusett, 02139, U.S.A
- WATSON, J. D. Cold Spring Harbor Laboratory, P. O. Box 100, Cold Spring Harbor, New York 11724, U.S.A

2003年度日本遺伝学会名誉会員候補者推薦書

2003年 月 日

推 薦 者	
(ふりがな) 氏 名	印
推薦者の職名	
連 絡 先	〒 TEL FAX E-mail

名 誉 会 員 候 補 者 (国内・外国)*	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
候補者現在の職名	
連 絡 先	〒 TEL FAX E-mail
【略 歴】	
【遺伝学会における活動歴】(国内名誉会員のみ)	
(紙面不足の場合は別紙 [B5 判] に記載し、添付して下さい)	

* いずれかを○で囲んで下さい

【推薦理由】

(紙面不足の場合は別紙 [B5判] に記載し、添付して下さい)

注： 候補者の主な発表論文のリストを別紙 (B5判を使用) に掲載し、添付して下さい。(黒のペンまたはワープロで明瞭に記入して下さい)。封筒には「名誉会員候補者推薦書在中」と朱書きして下さい。

提出期限： 2003年5月31日(土) (必着)

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会会長
問合先 TEL・FAX 055-981-6736

『思い出の一編』

萩原保成（横浜市立大学木原生物学研究所）

〈編集者前書き〉

学会誌に差し込みの国会記事の編集にこれからは工夫をこらし、読んで楽しい記事をいろいろ掲載し会員同志の語らいのサロンの感じを出せればと考えております。その企画の一部に「学会誌に掲載された論文から引用回数が高い論文」を選びだし、その第一著者にその論文執筆の時の思い出、外国研究者からの反響、エピソード、その後の仕事の発展の様子、今その論文について評価したいポイントなど、気楽に読めるエッセー風の文章を書いていただけませんか？多少その論文の概要も解説して頂いて。

私の意図は、第1著者はきっとその論文のデータを自らまとめ解析した研究者本人、または院生だったと思います。ですからその論文に寄せる思いはきっと後々迄強く続いている事でしょう。其れを語って頂き、若い研究者、院生に研究の醍醐味を伝えて頂きたいと思います。

趣旨に御賛同頂き、原稿を送っていただければ幸いです。

以下の論文は過去約25年間の本誌掲載論文中ベスト6に入っております。

最新データで引用回数は91です（田嶋調べ）。

Yasunari Ogihara and Koichiro Tsunewaki

Molecular basis of the genetic diversity of the cytoplasm in *Triticum* and *Aegilops*. I. Diversity of the chloroplast genome and its lineage revealed by the restriction pattern of ct-DNAs.

Jpn. J. Genet. 57: 371-396 (1982)

石和先生から、論文を投稿した頃のことどもをあれこれ綴ってください、との依頼を受けて、もう20年も前になる論文が掲載された遺伝学雑誌をとりだして眺めてみました。ページを繰っているとその頃、研究していた状況が鮮やかに蘇ってきました。丁度、1970年代に開発された組み換えDNAの技術をいろいろな生物種で展開しよう、としていた時期でした。高等植物でも、分子遺伝学黎明期で当時、国立遺伝学研究所分子遺伝部におられた杉浦昌弘先生がタバコ葉緑体遺伝子の構造と発現調節機構に関して先駆的な研究成果を発表しておられました。私は、博士課程を修了して学位を取得したところでした。それまで植物の培養組織と再分化個体での体細胞変異の染色体基礎を研究していました。当時の研究室（京都大学農学部遺伝学研究室）では、コムギ・エギロプス属の細胞質の遺伝的変異を核・細胞質雑種の生物的効果でみていました。生物学的表現型の解析が一段落して、新たな展開の時期にきていました。私の方も分子遺伝学的手法をコムギに応用してみたい、と希望していましたので細胞質の遺伝的分化を葉緑体DNAのRFLP（制限酵素断片多型）で解析する機が熟していました。杉浦先生のもとでタバコの葉緑体DNAの抽出、DNAの取り扱い一般を習得して京都に帰ってきました。早速、タバコでの手法を応用してコムギ葉緑体DNAを抽出しよう、と何度も試みましたがどうしてもうまく葉緑体DNAが抽出できません。ある時、細胞の浸透圧がタバコとコムギで違うのではないかと閃いて抽出バッファーを高張液（0.33Mから0.44Mのマンニトール）に変えてみました。祈るような気持ちで塩化セシウム密度勾配遠心後、チューブを食い入るようにつめました。紫外線ランプに映し出されたチューブにくっきりと2本のDNAバンドがみえた日のことは今でもはっきりと覚えています。飛び上がらんばかりでした。あとは、トントン拍子に解析が進み、当時外国のコムギ研究者と競争していたので遺伝学雑誌に投稿しました（遺伝学雑誌は素早く印刷してくれます）。基本的にこの論文の内容を翌年、京都で開催された第6回国際コムギ遺伝学シンポジウムで口頭発表しました。これが、私の国際学会での口頭発表のデビューになりました。以後、葉緑体DNAを指標にした系統進化の研究は、種々の植物システムで展開されました。その先駆けになったと思っています。その後、パンコムギの葉緑体DNAの全塩基配列を決定して、ゲノム構造の可変領域を発見し、葉緑体ゲノムの構造変異の分子機構を提示することができました。また、葉緑体ゲノム中のマイクロサテライトを指標にして、4倍体コムギの栽培化に関与した系統と栽培化された土地を推定することができました。分子マーカーと遺伝資源をドッキングさせ、植物の遺伝的変異に分子的基礎が与えられたら、と考えています。（2003/2/9）

『編集者への手紙』

辻本 寿（鳥取大学農学部植物遺伝育種学研究室）

〈編集者前書き〉

今回 GGS の挿入冊子の編集方針を少し変えたいと考えております。

単に学会からの連絡を中心にした本会記事ではなく、会員同志が情報を交換し、学会会長の意見を述べる場など、ある種のサロンの雰囲気を出し、会員が学会を自分のものとして位置付け参加を実感できる機会を作りたいのです。『編集者への手紙』というカラムを設け長さ自由の投稿を呼び掛けています。学会のあり方、遺伝学の将来についての意見、日頃感じておられることなどどのようなスタイルでも結構ですが、原稿をお寄せ頂けません。

前に貴兄が学会のあり方について持論を述べておられたのをお読みしました。

関連学会の共同開催による遺伝学に関する新しい流れを展望するシンポの御提案など貴兄の御意見を展開して頂いたものでも結構です。新しい大学に移られて、今後の抱負を書いて頂くのも会員／学友にとって参考になる事とおもいます。よろしくお祈りします。

昨年、首都圏にある研究所から地方大学の農学部へ異動した。新たに赴任した大学では、研究室に広い実験圃場と温室がある。またキャンパス内に充実した農場があって、しっかりと農場実習をうけた純朴な学生達は、研究室内でもパワフルに活躍している。キャンパスの周囲は農業地帯であり、豊かな自然が広がっている。農業について学ぶのに打って付けの条件である。研究レベルもとても高く、全てが中央に集中していると思っていた私には、やや驚きでもあった。こと農学に関しては、一般に言うところの中央と地方の関係が逆転しているのかもしれない。

この大学で私は育種学の講義を担当している。言うまでもなく育種学は品種改良を行うための科学である。分子遺伝学から集団遺伝学までの知識を結集して、変異の拡大方法や優れた集団の選抜方法について教える分野であり、基礎学問として見ても十分興味深いものである。

ところで、遺伝学と育種学は、メンデルやダーウィンの名前を出すまでもなく、元来同一の学問である。事実、日本における学会の歴史を見ても、日本遺伝学会は旧育種学会の発展的解消によって設立されたものであり、現在の日本育種学会はその後、日本遺伝学会から分岐して出発したものである。そして、長年、両者は関係を保ちつつ歩んできた。しかし、このところ両者はだんだんと分化して、疎遠になってきたように私は感じている。これは、分子生物学の技術が植物遺伝学研究の中心的な手法になるに及んで、遺伝学会においてはモデル生物を中心とした高いレベルでの基礎遺伝学を目指し、育種学会においては農学分野におけるバイオテクノロジーの雄として、多様な作物での応用に重点をおいて特化したためではないだろうか。高度に専門的になり、縦割りされた学問体系の中で、今や両者が情報交換さえし難くなったのかもしれない。昨年改訂された科研費の分野分科細目表に複合新領域が盛り込まれたように、このような縦割り構造を打破しようとの試みはあるが、それでも、本家である遺伝学（遺伝・ゲノム動態）と育種学は、生物学分野と農学分野に、大本から分岐している。これは、現在改革中の日本学術会議の組織の反映であって、遺伝学を共通の基盤としてもつ学問であっても 4 部と称される理学と 6 部の農学に最初から別れてしまっているのである。

このところ、産学連携や地域貢献などと言う言葉が強調され始め、その是非はともかく、どのような研究をするにおいても、その社会への出口を説明する責任が生じてきた。このような状況下において、基礎科学と応用科学の間に築かれてしまった壁を撤廃する努力が学会として必要な時期にあるのではないだろうか。理学、農学に限らず、遺伝学に基盤をおいた科学が自由に展開できる場を、遺伝学会がイニシアチブをとって開いてほしいと思っている。（2003 / 2 / 11）

第40回理工学における同位元素・放射線研究発表会発表論文募集のご案内

標記の研究発表会を下記の要領で開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行い、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。奮ってご応募、ご参加下さい。

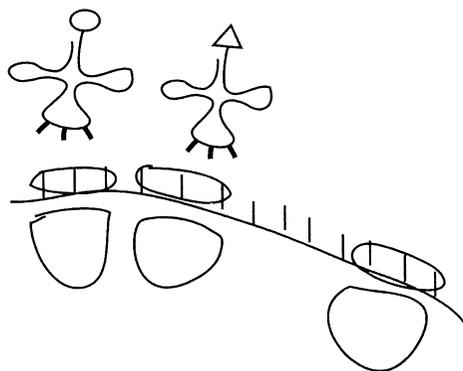
会 期 2003年7月9日(水)～7月11日(金)
会 場 日本青年館 (東京都新宿区霞岳町15番地)

- (1) 内 容 それぞれの研究分野において、その専門的成果を得るにいたった放射性および安定の同位元素ならびに放射線の利用の技術に重点をおいた研究およびこれら同位元素、放射線の利用の基礎となる研究。研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていること。
- (2) 発 表 形 式 口頭発表またはポスター発表。
- (3) 発 表 申 込 区 分
- | | |
|--|----------------------------------|
| 1. 基礎データ | 11. 地球科学・宇宙科学 |
| 2. 放射線測定機器・測定法 | 12. 環境放射能 |
| 3. 分析 (放射化分析, 放射化学分析等) | 13. ライフサイエンスにおける応用 |
| 4. トレーサ利用 | 14. 安定同位体 |
| 5. 製造・分離・標識化 | 15. 放射線教育 |
| 6. 線源・加速器 | 16. 特定区分 トリチウム |
| 7. 放射線利用機器 (ラジオグラフィ, エネルギー利用, 発光塗料等も含む) | 17. 特定区分 放射線効果 (基礎・応用) |
| 8. 陽電子消滅 | 18. 特定区分 コンピュータ利用技術・シミュレーション解析技術 |
| 9. メスバウア効果 | 19. その他 |
| 10. 放射線管理 (汚染除去, 健康管理, 安全取扱, 廃棄物処理, 運搬, 遮へい, コンピュータによる管理等) | |
- (4) 口 頭 発 表 時 間 1 件15分 (発表12分, 討論3分.)
液晶プロジェクタを準備します。Power Point (Microsoft 社製 Windows 用) による発表が可能です。ただし読み取り不良等の場合を想定し、必ず OHP シートによる画面コピーもバックアップ用に準備願います。詳細については事務局へお問合せ下さい。
- (5) ポ ス タ ー 発 表 申込区分はありません。1 件の発表に横 90 cm×縦 120 cm の展示パネル (クロス貼) 2 枚を用意します。
- (6) 発 表 者 の 資 格 発表者の一人が本発表会の主・共催学・協会の会員であること。
- (7) 発 表 申 込 日本アイソトープ協会ホームページ (<http://www.jrias.or.jp/>) 上から申し込み願います。ホームページを利用できない方は下記にお問い合わせ下さい。
- (8) 発 表 申 込 締 切 日 2003年2月28日(金)
- (9) 講 演 要 旨 口頭発表, ポスター発表とも, 1 件につきA4判用紙1枚。
要旨原稿の書き方と見本は, 日本アイソトープ協会ホームページに掲載します。
- (10) 講 演 要 旨 原 稿 締 切 日 2003年4月14日(月)
- (11) 参 加 費 2,000円 (学生は無料)

その他

- (1) フルペーパーの報文集は発行しません。
日本アイソトープ協会が発行する学術論文誌 RADIOISOTOPES に、この研究発表会の発表論文にかぎり、同協会会員以外でも投稿できます。
- (2) 発表申込件数、発表内容等によっては口頭発表からポスター発表に、またはポスター発表から口頭発表への変更をお願いすることがあります。

主 催 日本アイソトープ協会
連絡・問合せ先 理工学における同元素・放射線研究発表会運営委員会
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45
日本アイソトープ協会学術課内
TEL 03-5395-8081 FAX 03-5395-8053
E-mail: gakujutsu@jrias.or.jp



大 会 ニ ュ ー ス (その 2)

日 本 遺 伝 学 会 第 75 回 大 会 案 内

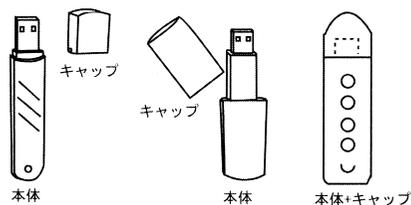
2003年の第75回大会は、仙台市の東北大学を会場に、下記のような企画で準備を進めております。多くの方々の参加をお待ちしております。大会ホームページではより詳細な最新の情報を見ることができます。

<http://meme.biology.tohoku.ac.jp/gsj03/index.html>

1. 会 場 東北大学 川内キャンパス
〒980-8576 仙台市青葉区川内（仙台駅よりバス約20分）
2. 会 期 2003年 9月24日(水), 25日(木), 26日(金)
(福岡大会で紹介しました会期より1日繰り上がっていますのでご注意ください)
3. 企 画
1) 一般講演

大会ニュース(その1)で連絡しましたように、例年通りの一般講演としますが、今回の発表は全てPCで行います。USBフラッシュメモリにデータを保存してお持ち下さい。会場備え付けのPCに接続して使用していただきます。ご都合の悪い場合は前もって事務局にご連絡を下さい。ご講演までにお手持ちの発表原稿(OHPや原図)を事務局にてスキャンし、それを上記メモリに保存してご利用いただくことを計画しています。

USBフラッシュメモリ(USBストレージメモリ)はPCのUSBポートに接続して使用します。数社から販売されていますが、大体次のような形をしています。記憶容量の異なるいくつかのタイプがあります。USB1.1やUSB2.0対応モデルが販売されています。どちらを使われても結構ですが、USB1.1のほうが同じ記憶容量ですと廉価です。



- 2) シンポジウム
海外の講演者数名を含め、交渉中です
- 3) ワークショップ
5件程度のワークショップを予定しております。突然変異生成機構とその修復機構、また植物の生殖とその関連分野における話題、の2題を現在提案して頂いています。まだ余裕がありますので、ご提案のある方は、ワークショップのタイトルとともに、2003年3月31日(日)までに集会名、期日などを準備委員会事務局へご連絡ください。採否については、準備委員会におまかせください。

4) 総会・懇親会 9月25日(木) 午後

5) 公開講演会 9月27日(土) 午後

遺伝学と生き物と環境のかかわりをテーマに、企画を進めています。

6) 関連集会

会期中、またはその前後に関連集会を予定している方は、2003年3月31日(日)までに集會名、期日などを準備委員会事務局へご連絡ください。

4. 大会参加・講演申し込み

参加・講演申し込みは、第75回大会のホームページ (<http://meme.biology.tohoku.ac.jp/gsj03/index.html>) の参加・講演申し込みフォームから申し込んでいただきます。ここに詳細な情報は逐次掲載していきます。ホームページをご覧になれない方は、ご面倒ですが、事務局まで葉書で参加・講演申し込み用紙を請求してください。

5. 講演要旨締め切り

2003年7月31日(郵送による方法の場合も締め切りは同じです。事務局宛に郵送してください)

6. 費用

第75回大会のホームページから払い込みの手続きをしてください。ホームページをご覧になれない方は、次号綴込みの払い込み票にて手続きをお願いします。

1) 大会参加費 一般6,000円 学生3,000円

(8月1日以降の払い込み 一般7,000円, 学生3,000円)

2) 懇親会費 一般6,000円 学生4,000円

(8月1日以降の払い込み 一般7,000円 学生4,000円)

7. 保育室

本大会では、保育室を準備する予定です。ご利用を予定されている方は5月31日までに準備委員会にご連絡ください。準備の都合上、ご利用される方の概数を把握しておきたく思っています。ご協力をお願いします。

8. 日本遺伝学会第75回大会準備委員会

大会準備委員長 山本和生

東北大学大学院生命科学研究科分子生命科学専攻

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

TEL 022-217-5054 FAX 022-217-5053

E-mail: yamamot@mail.cc.tohoku.ac.jp

9. 連絡先 準備委員会事務局 布柴達男, 山本博章

東北大学大学院生命科学研究科

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1

TEL 022-217-5055 FAX 022-217-5053

iden7503@biology.tohoku.ac.jp

(準備委員会への連絡は、なるべくこのEメールアドレスをお願いします)

会 員 異 動 新 入 会

日本たばこ産業(株) 植物イノベーションセンター	〒438-0802	静岡県磐田郡豊田町東原700
能 美 健 彦	〒158-8501	東京都世田谷区上用賀1-18-1 国立医薬品食品衛生研究所
辻 耕 治	〒565-0871	大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学大学院薬学研究所 薬用資源解析学研究室
森 田 正 之	〒573-1136	大阪府枚方市宇山東町18-89 関西医科大学教養部分子生物学教室
岡 穆 宏	〒611-0011	京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所

住 所 変 更

半 田 裕 一	〒305-8602	茨城県つくば市観音台2-1-2 農業生物資源研究所 新機能開発研究チーム
阿 部 周 一	〒041-8611	函館市港町3-1-1 北海道大学大学院水産科学研究科水産学部
吉 田 和 夫	〒739-2115	東広島市高屋高美が丘3-22-3
石 和 貞 男	〒187-0022	東京都小平市上水本町1-14-11
郷 通 子	〒464-8602	名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科
玉 手 英 利	〒986-8580	宮城県石巻市南境新水戸1 石巻専修大学理工学部

退 会

牧野 茂, 蛭谷宗哲, 平松和子, 市川比良久, 石村 桜, 伊藤弘樹, 角谷哲司, 兼広秀生, 室田哲郎, 西岡みどり, 佐藤忠文, 佐藤一憲, 佐藤進一, 高井明德, 高山 奨, 立野裕幸, 坪 由宏, 上島法博, 山本道雄, 米村 勇, 米澤勝衛, 山口 滋, 松島芳文
協和発酵東京研究所, 広島県立大学附属図書館, 北里大学獣医畜産学部図書館, 日本医科大学図書館, 三共株式会社研究推進部図書室, (有)河原書店

逝 去

国内名誉会員	川 村 智治郎 (2003年1月27日) 深く哀悼の意を表します
--------	-------------------------------------

寄贈図書・交換図書

科学 第73巻 第2号 (2002)

Agronomie	Vol. 22 No. 7-8 (2002)
AGRONOMIA LUSITANA	Vol. 50 No. 1-2 (2002)
中日友好医学学報	Vol. 16 No. 4 (2002)
PINSA (INDIA)	Vol. 68 No. 4 (2002)
The Biological Bulletin	Vol. 203 No. 2 (2002)

学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

賞・研究助成	授賞団体	提出締切
自然科学研究助成	財団法人三菱財団	12月15日～翌年2月22日
研究援助助成	財団法人山田科学振興財団	3月29日
研究助成	財団法人神奈川科学技術アカデミー	4月10日
環境問題研究助成	財団法人日本生命財団	5月7日
国際生物学賞	日本学術振興会 国際生物学賞委員会	5月7日
研究助成	財団法人トヨタ財団	4月1日～5月20日
学術シンポジウム	財団法人日本学術協力財団	6月30日
研究助成	財団法人持田記念医学薬学振興財団	6月30日
国内及び海外留学補助	財団法人持田記念医学薬学振興財団	6月30日
「グラント」研究奨励	化学素材研究開発振興財団	7月12日
沖縄研究奨励賞	財団法人沖縄協会	7月15日～9月30日
持田記念学術賞	財団法人持田記念医学薬学振興財団	7月31日
研究調査助成	財団法人日本証券奨学財団	8月16日
日産学術研究助成	財団法人日産科学振興財団	8月30日
日産科学賞	財団法人日産科学振興財団	8月30日
朝日賞	朝日新聞社	8月30日
笹川科学研究助成	財団法人日本科学協会	9月2日～10月15日
井上学術賞	財団法人井上科学振興財団	9月20日
木原記念財団学術賞	財団法人木原記念横浜生命科学振興財団	9月30日
研究集会助成	財団法人ノバルティス科学振興財団	10月1日～翌年1月末日
内藤記念科学振興賞	財団法人内藤記念科学振興財団	10月10日
内藤記念海外学者招へい助成	財団法人内藤記念科学振興財団	後期10月10日 前期6月3日
東レ科学技術研究助成	財団法人東レ科学振興会	10月10日
東レ科学技術賞	財団法人東レ科学振興会	10月10日
明日への環境賞	朝日新聞社	10月18日
研究成果公開發表(B)及び(C)	文部科学省学術国際局	11月18日～11月21日

(注) 学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締切りより通常は1ヶ月早く締め切る。
ただし、締切日などは変更の可能性もあるので、授賞団体に直接確認されることをすすめる。

2003年度日本遺伝学会 会費納入についてのお願い

本会の会費は前納をたてまえとしております。2003年度分（Genes & Genetic Systems Vol. 78 を含む）の会費を、御納入下さいますようお願いいたします。学生会員の方は在学証明書かそれに代わるもの（振替用紙の通信欄に指導教官などの署名・捺印）をお送り下さい。

1年以上の滞納者は会則第5条によって会員の資格を失いますのでご注意ください。

記

普通会員	10,000円
学生会員	6,000円
外国会員	10,000円
機関会員	15,000円
賛助会員（1口）	20,000円

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111

国立遺伝学研究所内

日本遺伝学会

電話 055-981-6736

FAX 055-981-6736

振替口座番号 00110-7-183404

加入者名 日本遺伝学会

この納入のお願いは本会記事綴じ込みのもので、すでに会費を納入された方にも、お送りいたしております。失礼の段お許し下さい。

日本遺伝学会入会申込書

年 月 日

日本遺伝学会会長殿

氏 名 (楷 書)	ふりがな
	印
	ローマ字
生 年 月 日 (西 暦)	年 月 日 生

貴学会に入会したいので必要事項を書き添えて申し込みます。

住 所 (自 宅) 〒 _____

住 所 (英文字) _____

電話 _____ FAX _____ E-mail: _____

所属及職名 _____

勤務先 (英文字) _____

勤務先所在地 〒 _____

勤務先所在地 (英文字) _____

電話 _____ FAX _____ E-mail: _____

雑誌送付先 〒 _____

最終学歴と卒業／修了年 _____

現在の専門分野 _____

加入学会名 (本学会以外の) _____

紹 介 者 (日本遺伝学会会員) _____

紹介者がお近くにおられない場合は、日本遺伝学会事務所にお問い合わせ下さい。

入会希望者は本申込書 (申込書用紙はコピーでも可) と同時に会費1年分10,000円を日本遺伝学会 (〒411-8540 三島市谷田 国立遺伝学研究所内) へお送り下さい。学生の方は在学証明書又はそれに代わるもの (指導教官の署名・印など) をお送り下されば学生会員として扱います (会費6,000円)。会費納入後に入会承認書をお送りいたします。

〔振替口座 00110-7-183404 加入者 日本遺伝学会〕

〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111 国立遺伝学研究所内

日 本 遺 伝 学 会

電話 055-981-6736 FAX 055-981-6736

Genes & Genetic Systems 編集役員

- 会 長 石和 貞男
〒187-0022 東京都小平市上水本町1-14-11
Tel./fax 042-323-6720; s-ishiwa@gf7.so-net.ne.jp
- 編集幹事 品川日出夫 大阪大学微生物病研究所
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘3-1
Tel. 06-6879-8317; fax 06-6879-8320; shinagaw@biken.osaka-u.ac.jp
- 編集委員 (2003年) CARR, Antony M.
Genome Damage and Stability Centre, University of Sussex, Falmer, Brighton, BN1 9RR, UK
Tel. +44-1273-678122; fax +44-1273-678121; a.m.carr@sussex.ac.uk
- 福井 希一 大阪大学大学院工学研究科応用生物学専攻生命反応工学講座細胞動態学領域
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1
Tel. 06-6879-7440; 06-6879-7441; kfukui@bio.eng.osaka-u.ac.jp
- 池内 達郎 東京医科歯科大学難治疾患研究所遺伝疾患研究部門
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-5-45
Tel. 03-5803-5857; fax 03-5803-0244; ikecgen@mri.tmd.ac.jp
- 井上 弘一 埼玉大学理学部生体制御学科
〒338-8570 浦和市下大久保 255
Tel. 048-858-3413; fax 048-858-3413; hinoue@seitai.saitama-u.ac.jp
- 河村富士夫 立教大学理学部生命理学科
〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
Tel. 03-3985-2401; fax 03-3985-2401; kawamura@rikkyo.ac.jp
- 米田 好文 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻植物科学大講座
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel. 03-5841-4454; fax 03-5841-4454; komeda-y@biol.s.u-tokyo.ac.jp
- 杓掛 和弘 岡山大学理学部生物学科
〒700-8530 岡山市津島中 3-1-1
Tel. +81-86-251-7863; fax +81-86-251-7876; ktkk@cc.okayama-u.ac.jp
- 松浦 悦子 お茶の水女子大学理学部生物学教室
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel. 03-5978-5377; fax 03-5978-5898; etmatsu@cc.ocha.ac.jp
- 森 郁恵 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-4560; fax 052-789-4559; m46920a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
- 村田 稔 岡山大学資源生物科学研究所
〒710-0046 倉敷市中央 2-20-1
Tel. 086-434-1206; fax 086-434-1208; mmura@rib.okayama-u.ac.jp
- 野島 博 大阪大学微生物病研究所難治疾患バイオ分析部門分子遺伝研究分野
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 3-1
Tel. 06-6875-3980; fax 06-6875-5192; hnojima@biken.osaka-u.ac.jp
- 大坪 栄一 東京大学分子細胞生物学研究所
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
Tel. 03-5841-7852; fax 03-5841-8484; eohtsubo@ims.u-tokyo.ac.jp
- 岡田 清孝 京都大学大学院理学研究科植物学教室
〒606-8224 京都市左京区北白川追分町
Tel. 075-753-4247; fax 075-753-4257; kiyo@ok-lab.bot.kyoto-u.ac.jp
- 岡田 典弘 東京工業大学生命理工学部
〒226-8501 横浜市緑区長津田町 4259
Tel. 045-924-5742; fax 045-924-5835; nokada@bio.titech.ac.jp
- ROTHSTEIN, Rodney
Department of Genetics and Development, Columbia University, 701W. 168th St.,
New York, NY10032, USA
Tel. +1-212-303-1233; fax 1-212-923-2090; rothstein@cuccfa.ccc.columbia.edu

- 佐野 芳雄 北海道大学大学院農学研究科応用生命科学専攻
〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目
Tel. 011-706-2439; fax 011-706-4934; rysano@abs.agr.hokudai.ac.jp
- 颯田 葉子 総合研究大学院大学先導科学研究科生命体科学専攻
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-35
Tel. 0468-58-1574; fax 0468-58-1544; satta@mailsv.soken.ac.jp
- SEO, Yeon-Soo
Department of Biological Sciences, Korea Advanced Institute of Science and
Technology, 373-1 Kusung-Dong, Yusung-ku, Daejeon 305-701, Korea
Tel. +82-42-869-2637; fax. +82-42-869-2610; yeonsooseo@mail.kaist.ac.kr
- 城石 俊彦 国立遺伝学研究所哺乳動物遺伝研究室
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
Tel. 055-981-6818; fax 055-981-6817; tshirois@lab.nig.ac.jp
- 館田 英典 九州大学大学院理学研究院生物科学部門
〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1
Tel. 092-726-4577; fax 092-726-4644; htachscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
- 田嶋 文生 東京大学大学院理学研究科生物科学専攻
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel. 03-5841-4051; fax 03-3818-5399; ftajima@biol.s.u-tokyo.ac.jp
- 東江 昭夫 東京大学大学院理学研究科生物科学専攻
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel. 03-5841-4465; fax 03-5684-9420; toh-e@biol.s.u-tokyo.ac.jp
- WU, Chung-I.
Department of Ecology and Evolution, University of Chicago, Chicago, IL 60637, USA
Tel. +1-773-702-2565; fax +1-773-702-9740; ciwu@uchicago.edu
- 山本 和生 東北大学大学院理学研究科
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
Tel. 022-217-6706; fax 022-217-6706; yamamot@mail.cc.tohoku.ac.jp
- 山本 雅敏 京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター
〒616-8354 京都市右京区嵯峨一本木町
Tel. 075-873-2651; fax 075-861-0881; yamamoto@ipc.kit.ac.jp

編集顧問 (2002~2003年)

- | | | |
|-----------------|---------------------|--------------------------|
| 遠藤 隆 (京大) | 松田 洋一 (北海道大) | 関口 睦夫 (生物分子工学研究所) |
| 布山 喜章 (東京都立大) | 三浦 謹一郎 (プロテオミクス研究所) | 塩見 忠博 (放射線医学研究所) |
| 五條 堀 孝 (遺伝研) | 宮田 隆 (京大) | 杉浦 昌弘 (名古屋市立大) |
| 平野 博之 (東京大) | 森川 弘道 (広島大) | SZMIDT, Alfred E. (九州大学) |
| 堀 寛 (名古屋大学) | 森下 卓 (大阪大) | 高木 信夫 (北海道大) |
| 飯田 滋 (基礎生物学研究所) | 森脇 和郎 (理化学研究所) | 高橋三保子 (筑波大) |
| 石和 貞男 (お茶の水女子大) | 向井康比己 (大阪教育大) | 高畑 尚之 (総研大) |
| 伊藤 建夫 (信州大) | 中田 篤男 (福山大) | 武部 啓 (近畿大) |
| 岩崎 博史 (横浜市大) | 中辻 憲夫 (京大) | 館野 義男 (遺伝研) |
| 川岸 郁朗 (名古屋大学) | 西田 育巧 (名古屋大) | 辻本 壽 (鳥取大) |
| 河野 重行 (東京大) | 小川 英行 (岩手看護短大) | 常脇恒一郎 (福井県立大) |
| 古賀 章彦 (名古屋大) | 大島 靖美 (九州大) | 山崎 常行 (九州大) |
| 駒野 照弥 (東京都立大) | 大坪 久子 (東京大) | 米川 博通 (都臨大研) |

2003年～2004年度役員・評議員

会長 石和貞男

評議員

(全国区)

- 遠藤 隆 京都大学大学院農学研究科
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
Tel. 075-753-6137; fax 075-753-6486; endo@kais.kyoto-u.ac.jp
- 福井 希一 大阪大学大学院工学研究科
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1
Tel. 06-6879-7440; fax 06-6879-7441; kfukui@bio.eng.osaka-u.ac.jp
- 郷 通子 名古屋大学大学院理学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-2976; fax 052-789-2977; go@bio.nagoya-u.ac.jp
- 五條堀 孝 国立遺伝学研究所生命情報DBJ研究センター
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
Tel. 055-981-6847; fax 055-981-6848; tgojobor@genes.nig.ac.jp
- 堀 寛 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-2504; fax 052-789-2974; hori@bio.nagoya-u.ac.jp
- 米田 好文 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel. 03-5841-4454; fax 03-5841-4454; komeda-y@biol.s.u-tokyo.ac.jp
- 松田 洋一 北海道大学先端科学技術共同研究センター動物染色体研究室
〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
Tel. 011-706-2619; fax 011-736-6304; yoimatsu@ees.hokudai.ac.jp
- 松浦 悦子 お茶の水女子大学理学部生物学教室
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
Tel. 03-5978-5377; fax 03-5978-5373; etmatsu@cc.ocha.ac.jp
- 仁田坂英二 九州大学大学院理学研究院生物科学部門
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
Tel. 092-642-2616; fax 092-642-2645; enitascb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
- 大坪 栄一 東京大学分子細胞生物学研究所
〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
Tel. 03-5841-7852; fax 03-5841-8484; eohtsubo@ims.u-tokyo.ac.jp
- (北海道地区) 阿部 周一 北海道大学大学院水産科学研究科・水産学部生命資源科学専攻
〒041-8611 函館市港町3-1-1
Tel. 0138-40-8864; fax 0138-40-5737; sabe@ees.hokudai.ac.jp
- 貴島 祐治 北海道大学大学院農学研究科
〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目
Tel. 011-706-2439; fax 011-706-4934; kishima@abs.agr.hokudai.ac.jp
- (東北地区) 玉手 英利 石巻専修大学理工学部
〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1
Tel. 0225-22-7716; fax 0225-22-7746; tamate@isenshu-u.ac.jp
- 山本 和生 東北大学大学院生命科学研究所
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
Tel. 022-217-5054; fax 022-217-5053; yamamot@mail.cc.tohoku.ac.jp
- (関東地区) 岡田 典弘 東京工業大学大学院生命理工学研究科
〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259
Tel. 045-924-5742; fax 045-924-5835; nokada@bio.titech.ac.jp
- 颯田 葉子 総合研究大学院大学先端科学研究科
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-35
Tel. 0468-58-1574; fax 0468-58-1544; satta@soken.ac.jp
- (東京地区) 平野 博之 東京大学大学院農学生命科学研究科
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
Tel. 03-5841-5065; fax 03-5841-5063; ahirano@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

- (東京地区) 米川 博通
〒113-8613 東京都文京区本駒込3-18-22
Tel. 03-3823-2015; fax 03-3824-7445; yonekawa@rinshoken.or.jp
- (中部地区) 広海 健 国立遺伝学研究所
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
Tel. 055-981-6767; fax 055-981-6768; yhiromi@lab.nig.ac.jp
古賀 章彦 名古屋大学大学院理学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-2506; fax 052-789-2974; koga@bio.nagoya-u.ac.jp
- (関西地区) 真木 寿治 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
〒630-0101 生駒市高山町8916-5
Tel. 0743-72-5490; fax 0743-72-5499; maki@bs.aist-nara.ac.jp
下田 親 大阪市立大学大学院理学研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel. 06-6605-2576; fax 06-6605-3158; shimoda@sci.osaka-cu.ac.jp
- (中国・四国地区) 香川 弘昭 岡山大学理学部生物学科
〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
Tel. 086-251-7865; fax 086-251-7876; hkagawa@cc.okayama-u.ac.jp
近藤 勝彦 広島大学大学院理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設
〒739-8526 東広島市鏡山1-4-3
Tel. 0824-24-7490; fax 0824-24-0738; kkondo@hiroshima-u.ac.jp
- (九州地区) 中別府雄作 九州大学生体防御医学研究所
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
Tel. 092-642-6800; fax 092-642-6791; yusaku@bioreg.kyushu-u.ac.jp
館田 英典 九州大学大学院理学研究院
810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1
Tel. 092-726-4577; fax 092-726-4644; htachscb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

幹事・役員

- 〈国内庶務〉 田嶋 文生 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
Tel. 03-5841-4051; fax 03-3818-5399; ftajima@biol.s.u-tokyo.ac.jp
- 〈渉外庶務〉 森 郁恵 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-4560; fax 052-789-4558; m46920a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
- 〈会計〉 斎藤 成也 国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
Tel. 055-981-6790; fax 055-981-6789; nsaitou@genes.nig.ac.jp
- 〈編集〉 品川日出夫 大阪大学微生物病研究所
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘3-1
Tel. 06-6879-8317; fax 06-6879-8320; shinagaw@biken.osaka-u.ac.jp
- 〈企画・集会〉 河野 重行 東京大学大学院新領域創成科学研究科
〒277-8562 千葉県柏市柏の葉5-1-5
Tel. 0471-36-3673; fax 0471-36-3674; kawano@k.u-tokyo.ac.jp
- 〈将来計画〉 高畑 尚之 総合研究大学院大学
〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町
Tel. 046-858-1502; fax 046-858-1542; takahata@soken.ac.jp
- 〈第75回大会準備委員長〉 山本 和生 東北大学大学院生命科学研究所
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
Tel. 022-217-5054; fax 022-217-5053; yamamot@mail.cc.tohoku.ac.jp
- 〈会計監査〉 荻原 保成 横浜市立大学木原生物学研究所
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
Tel. 045-820-1903; fax 045-820-1901; ogihara@yokohama-cu.ac.jp
深海 薫 国立遺伝学研究所生命情報・DDBJ研究センター
〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
Tel. 055-981-6857; fax 055-981-6858; kfukami@genes.nig.ac.jp

編集後記

『本会記事』から『GSJ コミュニケーション』に変わります。 ——日本遺伝学会（GSJ）会員交流の場を目指して——

「本会記事」を手にとられた会員は、GGJの内容をご覧になった方のうちの程度の割合いなのだろうか。本誌が、日本遺伝学雑誌「*Jpn. J. Genet.*」からGGJになって誕生したこの小冊子は、ともかくも本誌の付録として皆様に届けられ「会員へのお知らせ」を送り続けて来ました。しかしながら、学会ホームページもこれから充実させて行こうと努力している時に、この冊子の役割も変わって良いのではないか、もう少し新しい機能を持たせてはと幹事会で話し合い、会員のミニコミ誌風に編集方針を切り替える事にしました。幹事、評議員、名誉会員、会員間の意見交換、会員交流のサロンの場になるよう会員に協力を呼び掛けたいと思います。時には会長の意見表明をさせて頂き、広く会員からの批判、提案を期待する事も考えております。つきない遺伝学への興味を皆様から語って頂き、遺伝学会改革案を提示し広く会員からの議論を掘り起こして頂きたいと思っております。学会事務から従来通りのお知らせやお願いを掲載するのは勿論ですが、「若手研究者から研究会設立の呼び掛け」、「科研費の決め方異議あり」、「ある外国から友人が来てこんな話していった」、「遺伝学会崩壊論？イヤーやっぱり遺伝学会は残すべきだ」等、遺伝学会会員一人一人が学会運営を自らの事として意見を披露できる場となるよう、内容を工夫したいと考えます。遺伝学、遺伝学会をあらためて、しっかりと見つめる時が来ています。

本誌が届いたら、「まず同封された小冊子を開くのが習慣となった」、を目指します。あくまでも付録の枠内で、限られたスペースですから編集も時には厳しい制約を受けるでしょう。小さい活字で我慢して下さい。最初の内は投稿も少ないので、編集担当が思い付くままに寄稿を個人的に依頼せざるを得ないと思っております。しかし以下のような内容の記事を企画しておりますので、皆様からの投稿をお願いします。基本的には、1000文字程度。投稿などは、ワードによる添付文書としてメールでお送り下さい。

送り先は、ishiwa@cc.ocha.ac.jp 石和宛。

年6回偶数月本誌と同時発行。原稿メキり日は発行月（4月）の前月末（3月末）。使用言語は原則として日本語。投稿資格は遺伝学会会員である事を原則とします。原稿の編集上の取扱い、採否は編集者にご一任下さい。編集担当は遺伝学会幹事会とし、当面のあいだ会長が責任編集担当です。「本会記事」のタイトルを『GSJ コミュニケーション』『日本遺伝学会ニュース』のどちらにしたら良いか悩んでいます。またはさらに良い案がありましたら御提案下さい。

◎ 原稿を募集します。ここにリストしたテーマに限りません。

研究会の呼び掛け／書評または推薦書紹介／大学、研究所、研究室紹介（広告）—できれば日本全国遺伝学関連研究室案内データベース作成へ／わすれ得ぬことども／学会に入りました、よろしく／脱会寸前です、なぜ？／論文前・後（研究余滴）／こんなこと計画中—スポンサー募集／学会直言！／評議員所見／幹事便り／遺伝教育原論—遺伝の単元で何を伝えるのか（小学生から大学生までの変遷）／世界遺伝学会比較論／国際学会・研究会報告／学術会議、学会連合、各種委員会報告など。

「生きることの喜びを問え」、「勝負の時に風の声が聞こえたか」、「風の声、鳥の声、川の水の味を知らずして剣の道を歩んでも無意味だ」と石舟斎が矢継ぎ早に、しかし諄々と武蔵に説いた。武蔵はのちにこの極意は鍛練によってのみ会得できると五輪書で述懐しているという。

本誌に向う諸氏も時には柳生街道に足を運ぶ思いで小冊子を手に取り、旧友知己との語らいに喜びを見いだされんことを。
(石和, 2003/2/24)

日本遺伝学会会則

事務所 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内
平成8年1月1日施行

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員とすることができる。
本会に功勞のあつた者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は、会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則
平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第78巻 第1号 2003年2月25日発行 販価3,000円 発行者 石和 貞男・品川日出夫 印刷所 レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内</p> <p>日本遺伝学会 (電話・FAX 055-981-6736) (振替口座・00110-7-183404) 加入者名・日本遺伝学会</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事までご連絡下さい。</p>
--	--

乱丁、落丁はお取替えます。